

平成 30・令和元年度始良・伊佐地区指定研究協力校
「体力向上」 研究公開
霧島市立溝辺中学校

1 研究主題

「できた！わかった！が体験できる授業づくりを通じた体力・運動能力の向上」
～学校・家庭・地域が連携した体力・運動能力の向上を目指して～

2 全体会Ⅰ（研究発表）

「ゲー、パー、ゲー・・・」，全体会開会前に、溝辺中学校の生徒を代表して、生徒会保体部生徒の音頭で同校が年間を通して取り組んでいる「グーパー運動」を参加者全員で体感しました。体も心もぼかぼかになった状態で、全体会がスタートしました。

研究発表では、同校が実践してきた研究内容について、具体的に説明されました。学校全体での取組がよく分かる内容であり、参加者からも「具体的な実践例がたくさんあり、分かりやすかった。」，「身近なことでできることからそれらを体系付けて研究としてまとめてあり、大いに参考になった。」などの感想が寄せられていました。

また、保健体育科の授業の充実はもちろんのこと、日頃から学校と家庭が連携して運動に親しむ（取り組む）ために工夫していることなども示されました。それらの取組の成果として、生徒の体力・運動能力の向上につながったこともデータを基に説明されました。



【みんなでグーパー運動】



【中村教諭による研究発表】

3 公開授業



【授業前，整然と整列し，精神統一】

「生徒たちが楽しそうに取り組めていてよかった。」「子どもたちが積極的に取り組んでいた。」などの感想が寄せられました。準備運動から受け身まで十分な時間と活動量が確保されていました。

山田教諭は、受け身の重要性を授業のあらゆる場面で指導されていて、生徒たち自身も安全に留意して取り組む姿が見られました。前回り受け身に関しては、女子も含め、ほとんどの生徒に技能

「キビキビとした行動，礼儀正しい挨拶に日頃の教育が反映されていると感じた。」授業を参観された方の感想です。体育館に畳が整然と敷かれた会場で，2年生計 30 人，山田良太教諭による柔道の授業が公開されました。



【ICT を使った振り返り】

の十分な定着が見られました。また、柔道経験者である一人の生徒がスモールティーチャーとしての役割を果たしていました。

学び合いや振り返りの場面では、効果的にICTを活用し、自分の姿を映像で見直すことで、技能的な向上を確認し、達成感を味わっている生徒の姿が印象的でした。

今回の公開授業は、生徒たちの主体的に柔道に親しむ姿や学び合いの中での共感的な姿勢など参観した先生方に大きな感動と示唆を与えるものとなりました。



【一人一役、全員で授業づくり】

4 全体会Ⅱ（研究協議）

研究協議では、研究主題の「できた、わかったが体験できる授業づくり」を中心に、公開授業の内容を踏まえながら熱心な協議が行われました。小学校の先生からは、「中学校の体育の授業展開に触れる機会が得られ、大変勉強になった。」という意見や中学校の先生からは「グループでの話し合いの仕方について、自分自身が再考するよい機会になった。」という意見が出されました。また、小中学校の体育主任等が参加していたこともあり、異校種間の課題等についての意見交換もなされていました。「もう少し時間がほしかった。」との意見もあり、その充実ぶりがうかがえました。



【活発な研究協議の様子】

5 その他

体力・運動能力の向上に向けた同校の取組の様子が体育館いっばいに、柔道場の壁には、柔道に関する学習資料がたくさん掲示されていました。また、同校の取組の一つである、家庭や地域との連携の証、「みそめスポーツ新聞」と「体力つくりのためのリーフレット」なども掲示されていました。校舎内に目を向けると、校内の掲示板の至る所に保健体育コーナーがあり参考になりました。



【みそめスポーツ新聞】



【柔道の学習資料】

<参観者の感想>

- ・ 教師の指示がよく通っている。聞く態度がすばらしいと感じた。学習用具の管理にカゴを利用することで、行ったり来たりしないで時間短縮が図られ、道具が散乱せずけがの防止にもつながる。また、ICTの活用も参考になった。
- ・ リーダーを中心に準備運動等しっかりできていたのがよかった。ICTを活用し、自分の動きを確認しながらお互いにアドバイスをしていたのが参考になった。